



患者さまと市立小樽第二病院をつなぐ広報誌

# しんらい

信 頼

第2号  
2007年  
9月

2号第2版 平成19年11月1日 市立小樽第二病院広報委員会 発行責任者：馬淵正二



## 手術 Operation

心臓血管外科 腹部大動脈瘤（りゅう）手術に臨む（第二病院手術室にて）

### ”天使” と呼ばれて

今年度の看護部目標の一つに「丁寧で、考える看護の実践」があります。先日、その目標が実践されたうれしい報告がありました。

「この看護師さんは天使に見える」と、2年目の看護師が患者さまから言われたのです。なぜ天使かという、「話をじっくり聴いてくれるから」とのことでした。看護師は、今、この患者さまの話を聴くことが重要と「考え」、そして、「丁寧」に話を聴いたことで、長い間つらい症状と闘ってきた患者さまの心が和らいだのです。

若い看護師は、患者さまとのさまざまな関わりを通して、「看護の喜び」を感じ、たくましく成長していきます。

今後も、第二病院看護部は「丁寧で、考える看護」を実践し「患者さまの支えとなれる看護」を目指し努めてまいります。



総看護師長  
村田 悦子

### 【市立小樽第二病院 基本理念】

『市民本意の医療を行い、地域に根ざした市民に信頼される病院を目指します』

### — 基本方針 —

- 1) 24時間365日、救急医療を積極的に推進します。
- 2) 安全な医療を提供できるように、職員の安全教育を強力に推進します。
- 3) 患者さまの人格、信条を尊重し、患者さまに優しい医療を提供します。

# ドクターに聞く(1)

のうせきずいえきげんしょうしょう  
【脳脊髄液減少症】

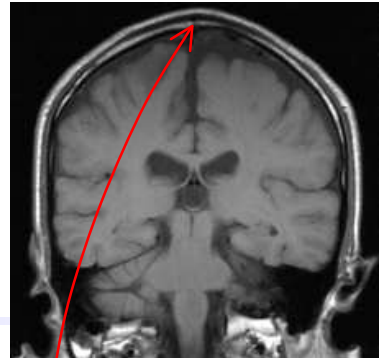


これまで慢性的なむち打ち症は、原因がはっきりとしない病とされてきました。しかし近年、「脳脊髄液」の減少がその原因になっていると指摘されています。今回は「脳脊髄液減少症」の専門医、高橋明弘先生にこの病気について聞いてみました。

## Q 脳脊髄液減少症とはどのような病気ですか？

**A** 脳脊髄液減少症とは、交通事故やスポーツなどで受けた強い衝撃が原因で、脊髄を包む「硬膜」が破れ、中の髄液が漏れ出すという病気です。

この髄液漏れにより脳の位置が下がり、頭痛やめまい、耳鳴り、倦怠感などを引き起こします。



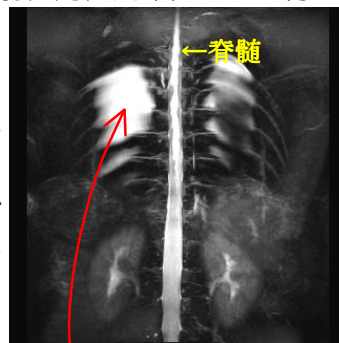
MRI 画像：脳の位置が下がり隙間ができています。

## Q どのような検査を行うのですか？

**A** 造影剤を使った脳MRI検査を行います。髄液の減少所見が良く分かるよう断面を変えて撮影し、脳の下方偏移の有無や脳静脈拡張の有無を確認します。

また、R1脳槽シンチグラムという検査があります。これはラジオアイソトープ（放射性同位元素）という特別な薬を脊髄の中に注入し、一定時間ごとに薬の分布状態を見ることで髄液漏れの有無や漏れている部位が分かります。

このほか、脊髄MRミエログラフィーという検査で髄液を含めた体液の分布状態を見ることができます。



造影MRI画像：脊髄から髄液漏れが疑われる。

## Q 治療方法について教えてください。

**A** 急性期には、約2週間横になって安静を保ち十分な水分をとります。また、6ヵ月以上経過した慢性期の場合は、ブラッドパッチ療法というものがあります。

ブラッドパッチ療法とは髄液が漏れているかどうかをラジオアイソトープで検査（左項参照）をした後、患者さま本人の血液を背中に注入し、血液の凝固作用で髄液が漏れる個所をふさぐ方法です。

## Q 治療の効果はどれくらいありますか？


**A** 1回の治療で痛みなどの症状が消えることもあります。症状の改善には平均3回の治療が必要となります。

なお、これまでにこの治療を受けられた患者さまの約7~8割に改善効果が現れています。

## Q ブラッドパッチ療法を受けると治療費はどれくらいかかりますか？

**A** 治療費は健康保険の適用外となります。そのため初回は6日間の入院治療も含めて約30万円かかり、3回の治療を合わせると約70万円の自己負担になります。

※脳脊髄液減少症に関する診察をご希望の方は、事前に地域医療連携室までご予約ください。

 急性期の透析治療にも対応

透析室では、腎臓の機能が低下した患者さまを対象に、人工透析装置での治療を行っています。病気で腎臓の機能が低下し、正常に働かなくなった状態が「腎不全」です。腎不全の状態がさらに進行すると、過剰な水分や不要な物質が尿として体の外に出ていなくなるため、透析治療が必要になります。

当院透析室の患者さまのほとんどは、この経過が年単位でゆっくり進行した「慢性腎不全」です。週に2～3回通院して3～4時間の透析治療、いわゆる「維持透析」を受けています。

維持透析を行うには「内シャント」手術によって、血流が十分に繰り返し使える血管を作る必要があります。当院では心臓血管外科が担当しています。維持透析患者さまは、血圧・ホルモン・電解質などの適切な管理・調節

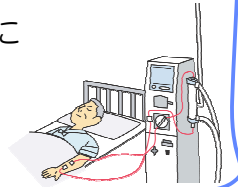


が必要となり、心臓や血管系の合併症も多くなるため透析室の管理運営は循環器科が担当しています。

一方、当院透析室は「慢性腎不全」に対して、日単位で急速に進行する「急性腎不全」の患者さまが多いことが特徴です。また、心臓や脳の合併症で入院が必要となった患者さまの透析も多く行っています。特に脳卒中や心筋梗塞の急性期に透析治療を行える施設は後志管内でも限られており、他の病院からの依頼も受け入れています。そのために、透析ベッドの一部を緊急時に備えて確保しておくよう、常に配慮しています。

限られた医師・看護スタッフの中、昨年7月からは土曜日の午前透析も開始し、少しでも多くの需要に応えられるよう努力しています。

これからも後志地区の地域医療に貢献できるよう、スタッフ一丸となって頑張ります。



## 食事を おいしく、楽しく、安全に

### 市立小樽第二病院での摂食・嚥下障害への取り組み（前編）

医療法人社団 館歯科医院 手宮歯科医院 館 宏

館 宏 先生

歯科医院での診療のほか、摂食・嚥下リハビリや栄養管理指導でも活躍されています。

現在、小樽市の65歳以上の割合を示す高齢化率は28%を超えています。この高齢化率は、全道平均の20.1%、全国平均の19.9%を大きく上回っており、道内の人口10万人以上の主要都市においても明らかに高くなっています。

高齢者の皆さんにとって、日常生活における最も大きな楽しみは「食事」と聞いています。そして、いつまでも美味しく、楽しく安全に食べられることは、高齢者ご本人や、家族にとりましても切なる願いであると考えます。

しかし、脳血管障害や肺炎などのさまざまな病気や、加齢に伴う飲み込むための筋肉（嚥下関連筋といいますが）の機能低下などにより、生きるために必要不可欠で、もっとも基本的な機能である「食べる機能」「飲み込む機能」に障害がでることがあります。この障害のことを「摂食・嚥下障害」または「飲み込み障害」といいます。

近年、TVや新聞などのマスコミでも数多く取り上げられていますので、聞いたことがある方もいらっしゃる

と思います。

今、口から食べる機能に障害のある方が高齢者を中心に増えてきています。これは脳血管障害などで生命は救われても、摂食・嚥下障害や片麻痺などの後遺症を残す疾病が増加しているからです。

摂食・嚥下障害は、食べられないために低栄養状態を引き起こすのみならず、誤嚥性肺炎等の発症や、餅をのどに詰まらすなどの窒息の危険性など、社会に重大な影響を及ぼしていることも事実です。

平成17年に北海道内の要介護高齢者の現状を把握するために、病院や介護保健施設および介護支援専門員（ケアマネージャー）を対象に実態調査を行いました。これによると道内には、要介護高齢者の約18%に当たる約3万5000人も摂食嚥下障害患者がいると推測されます（ちなみに、小樽市においても約1500名の摂食嚥下患者がいると思われます）。このようなことから、摂食・嚥下障害は決して珍しい障害ではなく、全ての医療・介護の従事者にとって対応が必要なことが認識されてきたと考えます。（次号後編に続きます）



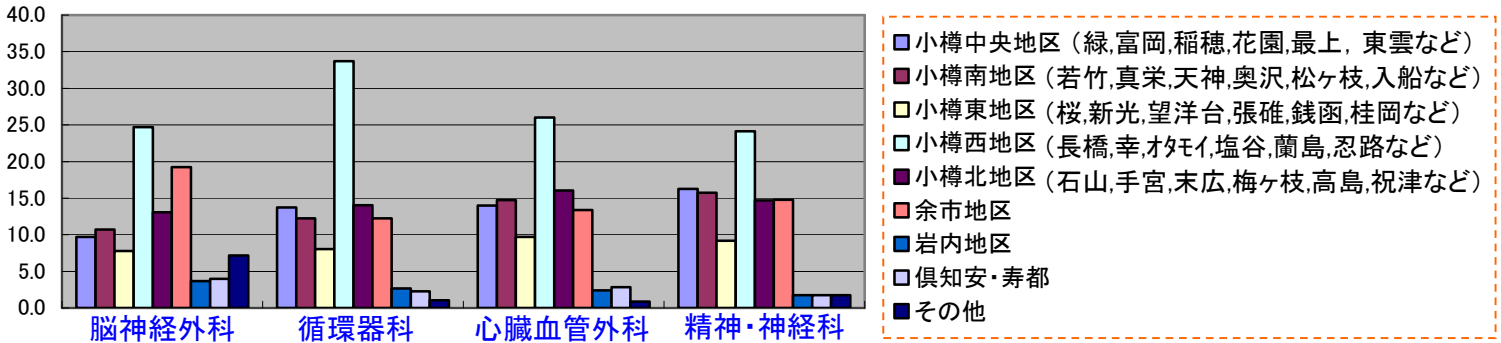
# 数字でみる『第二病院』

## 【地域別にみた患者さまの割合】



今回は、第二病院に来ていただいている患者さまを市内5地区と余市、岩内、倶知安・寿都、それ以外の全部で9地区に分け、地域別の患者さまの割合を調べてみました。

下の表をご覧ください。各診療科とも小樽西地区の方□の割合が高く、逆に東地区□が低い「西高東



低型？」を示しています。これは小樽市が東西に細長い地形であり、第二病院がある西地区の方のご利用が多いためと思われます。

これ以外に、脳神経外科を受診される余市地区の方□の割合が、他の診療科と比べると高いことも特徴といえるかと思えます。

今回の集計ではこのような結果でしたが、市立病院として、すべての地区の方に安心してご利用いただける病院を目指します。

- 小樽中央地区 (緑,富岡,稲穂,花園,最上, 東雲など)
- 小樽南地区 (若竹,真栄,天神,奥沢,松ヶ枝,入船など)
- 小樽東地区 (桜,新光,望洋台,張碓,銭函,桂岡など)
- 小樽西地区 (長橋,幸,オタモイ,塩谷,蘭島,忍路など)
- 小樽北地区 (石山,手宮,末広,梅ヶ枝,高島,祝津など)
- 余市地区
- 岩内地区
- 倶知安・寿都
- その他

初の市民公開講座 盛会裏に終了

### 多数のご参加 ありがとうございました！

10月6日(土) 好天に恵まれた小樽市消防舎講堂にて、市立小樽第二病院主催としては初の市民公開講座を開催しました。

「進歩した下肢静脈瘤の治療」と題し、講師に下肢静脈瘤治療の国内第一人者である白石心臓血管クリニック院長 白石恭史先生を香川県からお招きして下肢静脈瘤の原因から治療まで分かりやすくお話していただきました。

市民公開講座には142名もの多数の皆様のご参加をいただき、盛会裏に終了することができました。小樽第二病院では今後も市民のみなさまの健康に役立つ講演会を企画してまいりたいと思います。



白石恭史 先生



### 「おたる潮まつり」に参加しました

「潮ねりこみ」に市立小樽病院・第二病院優患連合で参加しました。



ご覧ください

市立小樽第二病院  
ホームページ

アドレス

<http://www.med-otaru.jp/dai2hp/>



- ◆受付時間 午前8時40分～/午後1時30分～
- ◆休診日 土・日曜日、祝日、年末年始
- 発行：市立小樽第二病院
- 〒047-0036 小樽市長橋3丁目11番1号
- TEL(0134)33-4151・FAX(0134)32-6347